



高齢化社会を背景に、人の身体機能を補助する安楽椅子の需要は拡大を見込む。量に直接座ったり、ソファに寝転がるなどの姿勢は身体に想像以上の負荷を与えることもあり、「寝たきり」回避や自立支援のためにも安楽椅子の普及は望ましい。佐賀県や市、佐賀大学医学部、諸富家具振興協同組合が連携し、人間工学研究に基づく「人にやさしい椅子」の開発が始まった。

安楽椅子の究極の形がマツサイジチェアである。しかし、その重装備、重量、価格は一般的とは言い難い。必要最小限の機能を備え、市価を抑えることが当初の課題だった。

### 佐賀市や佐賀大など産・官・学が連携した安楽椅子の開発が始動。

一般的とは言い難い。必要最小限の機能を備え、市価を抑えることが当初の課題だった。



産・官・学が連携し、人間工学研究に基づいて開発された「人にやさしい椅子」。疲れにくく、腰痛緩和などが期待できる高機能を備える。

### 高齢化予備軍の50代をターゲットに認知度向上を目指す。

クッション素材には「プレスエア」を使用。同素材は新幹線N700系にも採用され、体圧の分散と通気性を両立。背中ラインに沿って背もたれを調節できる機能を備え、腰痛緩和にも効果的。現在は、高付加価値を訴求するための宣伝方法を見直すなど販路拡大を画策中だ。

(上) ヘッドレストは任意で設定できる仕様とした。また、オプションとしてオットマン(足置き)を用意。足を伸ばすことで、血流停滞を防げる。(中) 座る人の背中カーブに沿って背もたれの張りを調節できる。疲れにくく、腰痛緩和が期待できる機能である。(下) 作業工程の多くは、熟練職人による手作業が頼りだ。

## 【佐賀県・佐賀市】

# 人間工学研究に基づいた人にやさしい椅子の開発と販路開拓

## 有限会社 平田椅子製作所

Company Info.

### 木の美しさや素材感を生かした木製家具製作で市場ニーズに応える。

昭和39(1964)年、福岡県大川市に創業し、昭和42年より食卓椅子の製造を始める。昭和55年、需要増にともない工場を拡張。さらに昭和61年に工場拡張とともに精電塗装設備を導入した。翌年法人化を果たし、有限会社平田椅子製作所を設立。平成6(1994)年、現住所に工場を移転し、現在に至る。市場ニーズやライフスタイルに即したデザイン性に富む製品を開発する一方で、木材が有する美しさや素材感を生かした家具作りにも力を注ぐ。本プロジェクトには国産の桧材を使用した。



平田尚二さん/代表取締役社長。本プロジェクト始動以前より有志のバリアフリー研究などに参画。定年後の希望者を再雇用するなど熟練技の温存、継承にも尽力。



○活用する地域資源：諸富家具・建具

## 高齢化社会を背景に需要増を見込む人間工学に基づく椅子。

今後加速度的に高齢化が進む市場を視野に、高齢者の身体機能を補助したり、障害者の自立を支援する安楽椅子の需要は、拡大が予想される。そこで広く一般に普及する安楽椅子を開発するため、産・官・学が連携。人間工学研究に基づいた「人にやさしい椅子」が誕生した。高齢化予備軍と目される50代を主要ターゲットに販路拡大を目指している。